



すだじいの百年日記 vol.19

～栗東景観よもやまばなし～



※ふるさと風景～わがまち栗東～を百年先の次代へと継承するため、「景観条例」「百年計画」を制定しました。「すだじい」は、団栗の一種。団結する栗東市民を意味します。

問合せ…都市計画課 ☎ 551-0116

FAX 552-7000



第18回寄稿
磯貝 豊明 氏
六地藏自治会長

◎今こそ大切にこの文化遺産 を後世に伝えたい

歴史文化の香りが馥郁と漂うわが六地藏は、旧東海道の間の宿として栄え、名所旧跡が数多く点在しています。

古くは東海道を行き交う旅人、その人々を相手にした商家が今も多く残っており、いまだにわたしたちは隣近所を呼ぶとき昔の屋号や商い品の種類などと呼んでいます。例えばローソク屋さん、下駄屋さん、指物屋さん、傘屋さん、京屋さん、蔦屋さん、酒屋だった鈴鹿川さんなどです。

また春秋のお彼岸には道をいっばいにして行き交う善光寺参りの善男善女、子どもたちでずいぶんにぎわったものです。

錦秋には六地藏山にたくさん出るマツタケ狩り



▲屋号を記した看板



▲旧和中散本舗の庭園



▲祭りの日の街道

を楽しみに、手原駅で降り降りする京阪神からのお客さまで大変にぎやかなものでした。そして終戦間もなくには関東から京都や大阪に進駐する連合軍の銃剣を持った兵士、装甲車、戦車など何百人の軍の行進もあり、その後もアメリカ軍のトラックや四輪駆動車が砂ぼこりを立てながら毎日行き交う街道でした。

昭和27年に開通した今の国道1号線のおかげでその役割に終止符が打たれ、今はひっそりと歴史街道として案内ブックを片手に重要文化財の旧和中散本舗（庭は小堀遠州作と伝えられる日向山を借景にした見事な庭園です）や国宝の地藏尊を祀る法界寺、その昔高野造の邸宅跡と伝えられる福正寺の大きな伽藍、また昔の面影を

残した旧家が立ち並ぶ街道筋、そして戦国時代に築城され、今も石垣が残る多喜山城跡を巡る人々が行き交っています。

わたしたちは先人の残してくれたこの素晴らしい歴史文化を甘受するだけではなく、その遺産を大切に保存し、その上に新たな歴史をつくりながら、次の時代に継承し、後世に今の時代に生きていくわたしたちの心意気を大事に伝えていきたいものです。

六地藏に住まいすることの素晴らしさをもう一度思い返して、今わたしたちは何をすべきか、どのような行動を取ってこの歴史街道を後世に伝えるべきかを考える時ではなからうかと思うものです。